

令和3年度 相原高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	公務外非行を防止するとともに、職員行動指針を周知し、不祥事発生をゼロにする。	2月に不祥事防止研修会を実施した。職員啓発用の資料を用いて、服務規律の遵守について意識啓発を図るとともに、職員相互の日ごろからの会話や職員会議等を通じて意識啓発に努めた。
セクハラ・わいせつ行為の防止	生徒との不適切な関係、部活動やその他における不適切な行為防止の徹底を図る。	6月、7月、11月に不祥事防止研修会を実施した。日ごろから風通しのよい職場づくりを通じて、小さなことから注意を喚起し、そうした不祥事が起こる環境を作らないように努めた。
体罰、不適切な指導の防止	体罰、不適切な指導の防止を徹底し、パワーハラスメントの発生をゼロにする。	7月に不祥事防止研修会を実施した。日常的に生徒指導に関する情報交換を密に行い体罰の防止に努めるとともに、生徒の変化に注意を払い生徒理解に基づいた適切な指導を行った。また、いじめや暴力に係る生徒アンケートを実施し、いじめの根絶、未然防止に努めた。
成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	定期テストの作成と取扱い、通知表等の作成、成績処理、調査書、推薦書等の書類の作成及び取扱いに係る事故をゼロにする。	6月に不祥事防止研修会を実施した。成績一覧表、通知表、指導要録や調査書等の作成マニュアルに基づき、職員が正しく理解し、作成できるよう、適切に遂行し徹底した。また、進級や卒業に関する生徒及び保護者への適切な指導を行うため、必要な情報の共有と意識啓発に努めた。
会計事務等の適正執行	私費会計基準に則った適正な会計処理を行う。	10月に、不祥事防止研修会を実施し全職員で適正な私費会計事務の執行について確認をした。また、財務事務調査及び会計監査実施後に調査・監査の結果を職員に周知し、会計処理の留意点について再確認を行った。
個人情報等管理、情報セキュリティ対策	生徒の個人情報の紛失、漏洩等の不祥事防止を徹底する。	5月に不祥事防止研修会を実施した。職員会議や不祥事防止会議等を通じて、適切な管理のため意識啓発を行うとともに、週末ごとに、身の回りの個人情報の管理を確認した。また、9月に再度不祥事防止研修会を実施し、個人情報の取扱いについての留意点について確認を行った。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故、酒酔い、酒気帯び運転防止、交通法規の遵守不祥事発生をゼロにする。	11月に不祥事防止会議等を通じて、法令を遵守する姿勢をもたせ、交通事故の未然防止を徹底するとともに、職員アンケートを実施し研修会の有用性を確認した。
入学者選抜に係る事故防止	入学者選抜に係る事故をゼロにする。	12月に不祥事防止研修会を実施した。業務や点検体制を見直し、適切な入学者選抜の体制の確立に努めた。また、不祥事防止研修により、過去の事故の事例を自らのこととして確認し、不安の残らぬ準備を行うとともに非常時の臨機応変な対応ができる組織体制とした。
業務執行体制の確保等	業務執行における情報共有、相互チェック体制、業務協力体制を徹底し、不祥事発生をゼロにする。	3月に不祥事防止研修会を実施した。日常から管理職を含む教職員間で気になること、ヒヤリしたりハッとしたりすることなどの情報を共有し、不祥事の未然防止に努める職場環境づくりを目指した。

○ 令和3年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和4年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

本校では、日ごろから朝の職員打合せや職員室内での掲示等を通して職員への事故・不祥事防止に係る注意喚起を行うようにしてきた。

校長として、職員一人ひとりに対しても声かけを大切にして、風通しのよい職場づくりに努めながら、指導・監督、注意喚起を行ってきた。さらに、毎月の職員会議後に副校長が不祥事ゼロプログラムに基づきテーマを決めて不祥事防止研修会を実施するとともに、神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発資料等を利活用して神奈川県職員としての行動指針の点検を行ってきた。また、こうした定例の取組に加え、県教育委員会からの要請により、今年度はわいせつ・セクハラ行為の防止に関する職場討議による研修を7月と11月に行っている。

今後とも、事故・不祥事の未然防止のため、必要な注意喚起を怠らず、また、職員への個別の面談等を通じて、事故・不祥事の起こらない環境づくりに努めていく。保護者はもちろんのこと、地域住民、県民等に信頼の得られる学校づくりに努めることは言うまでもないことである。

来年度は、今年度の不祥事ゼロプログラムを検証して、課題の抽出を図り、職員の共通認識のもとでより効果的な実践を行う。また、些細な事象が大きな事故や不祥事に繋がる温床になることが多いことを認識して、不安要因の払拭にあたる。

以 上